

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 富山大学大学院教職実践開発研究科（主催）、独立行政法人教職員支援機構(主催)、富山県教育委員会(後援)
コラボ研修プログラム	事業名：小学校から高等学校までの継続した探究的な学びを考える
支援事業報告書	研修等名：【NITS・富山大学教職大学院コラボ研修】 事業名：小学校から高等学校までの継続した探究的な学びを考える
開催日時：令和4年8月24日 13時30分～16時30分 開催場所：富山大学（富山県富山市五福3190番地） 参加人数（総数）と参加者の属性：（40人）学部新卒5人、小学教員校4人、中学校教員6人、高校・特支教員13人、教育委員会・大学関係者12人	

内容：

① 基調講演 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 野内頼一氏

現在、どのような人材が求められているのか、という観点で話があり、学習する子供の視点に立って考えること、児童・生徒が主体的に探究の過程全体を遂行できるようになることが重要であるということをも交えながらお話いただいた。



② 富山県教育委員会の取組 富山県教育委員会 県立学校課 指導主事 團 麻三子氏、小中学校課 主任指導主事 山越哲也氏

第3期「富山県教育振興基本計画」および「富山県成長戦略」でも、ウェルビーイングの向上をめざして人材育成、地域づくりをしていくこととなっている。課題解決型学習を進めるために、県立学校、小・中・義務教育学校での取り組み事業についてお話をいただいた。

③ グループセッション

参加者が小学校、中学校、高等学校に分かれてグループ協議した。協議テーマは

- ・これからの社会で生きるために子供に必要な力は何か
 - ・その力をつけるために教師はどのような支援をすればよいのか
- であった。グループワークの中で、情報活用能力や問題発見能力の必要性、児童生徒の成功体験を積むような取り組みの重要性などについて意見交換を行った。



④ 全体会での情報共有

グループセッションで協議した内容についてグループ毎に発表した後、富山大学 就職・キャリア支援センター 日比野昭則コーディネーターより講評があった。社会人に求められる能力を社会人基礎力や就職基礎能力等の面からも話があり、学校教育と共通する場面が多いことを参加者は理解したようである。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

今回の研修では、高等学校の総合的な探究の時間だけでなく、小学校、中学校で必要な探究的な学習の進め方に関する話題もあり、講演とグループ協議を取り入れた参加型の研修会であった。勤務校で探究的な学びを進める上で参考になったか、また、探究的な学びを他の教員に勧めたいと思う内容であったか、というアンケートに対して全員が肯定的な評価であり、特に 57.1%の参加者が「特にそう思う」という回答であった。

また、講評では、企業経験者からの視点も入れての話もあったため、現職教員にとっては刺激的であったという評価を得た。

アイデアや工夫したこと： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- ・探究的な学びを小学校、中学校、高等学校の観点から考えた。
- ・講演の後に、グループ協議、全体会での報告を入れて、参加者の意見を共有した。
- ・企業経験者からのコメントをもらうなど、幅広い視点からの情報を取り入れた。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

